

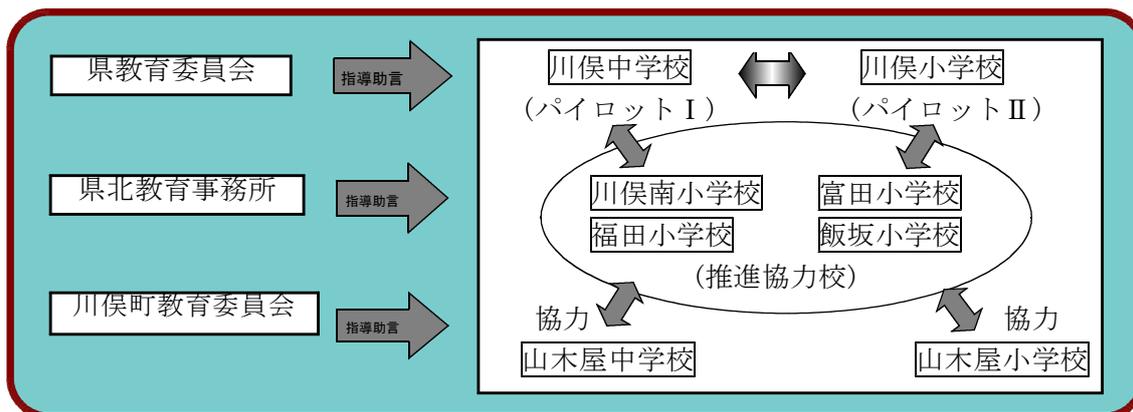
「平成29年度『学びのスタンダード』推進事業」の推進地域の取組

パイロット校名	川俣町立川俣中学校、川俣小学校
推進協力校名	川俣町立福田小学校、富田小学校、川俣南小学校、飯坂小学校

川俣町「学びのスタンダード」推進地域協議会の実践

1 推進地域における「授業スタンダード」の活用について

(1) 川俣町推進地域のかかわり



(2) 川俣町推進地域協議会の実践内容

① 目的

福島県及び川俣町の復興を担う子どもたちに確かな学力を身に付けさせるため、「**学びのスタンダード**」を基盤とした、**より質の高い授業**や効果的な家庭学習の実践及び**各学校の研修の充実**を図ることなど、児童生徒の学力向上に関する事業を推進する。

② 学力向上にかかわる実践内容

「学びのスタンダード」推進事業を通じた、学力向上のための学習指導改善と開発

ア 推進地域協議会の計画的な開催

イ 課題の明確化と共有化（学力の実態把握、分析、対応策）

ウ 各園・各校への指導助言（資料提供・情報交換）

エ **「授業スタンダード」を基盤とした授業研究会**

オ 幼・保・小・中の連携（教師相互の授業参観、交流学习、学習・生活に係る共通実践）

カ 実践資料集の作成

キ 推進事業効果の検証（継続的・計画的な変容の把握）

ク 推進事業の評価と次年度の計画

③ 「推進地域授業研究会」の開催（年1回実施）

○ 11月 2日(木) 川俣小学校

○ 11月20日(月) 川俣中学校(国語科、数学科)

④ 「推進地域協議会」(年5回程度)

- 第1回 5月16日(火) 本年度の授業推進(組織編成)、事業計画、公開授業実施要領
第2回 6月28日(水) 各校の取り組み、各委員会の推進計画
第3回 7月26日(水) 「講演会」福井大学学術研究院准教授 風間寛司 氏
第4回 12月20日(水) 今年度の反省
第5回 2月19日(月) 次年度の計画、本年度の研究のまとめ

2 パイロット校の取組内容

(1) 推進教師による「授業スタンダード」に基づく授業実践

⇒授業の質的改善、校内研修の活性化

- ① パイロット校Ⅰ(推進教師): 5/29(月) 学校訪問、11/20(月) 推進地域授業研究会
② パイロット校Ⅱ(推進教師): 5/26(金) 授業研究会(6年理科)

(2) 指導体制について

- ① パイロット校Ⅰ: 数学科「タテ持ち」

	1組	2組	3組	4組
1学年	A 姓(教務主任)	C 姓(3年副担)	B 姓(2年主任)	
2学年	A 姓(教務主任)	B 姓(2年主任)	C 姓(3年副担)	D 姓(2年副担)
3学年	A 姓(教務主任)	B 姓(2年主任)	C 姓(3年副担)	C 姓(3年副担)

指導方法の共有を図り、協働して担当教科の授業づくりを行うことを重視し、「タテ持ち」を行う。

- ② パイロット校Ⅱ: 「教科担任制」

ア 6年担任による授業交換

- 専門性を生かした6年担任による授業交換

- ・ 1組担任: 算数科 ・ 2組担任: 国語科

イ 教務主任による専科(5年1組・2組: 算数科)

- 学級担任はT2として授業に参加

ウ 理科専科による「タテ持ち」

- 4～6年の授業を担当(5年は1組のみ)

3 推進協力校の取組内容

- (1) パイロット校と連携し「授業スタンダード」に基づく授業実践を行った。
(2) 「推進地域研修会」等において、「学びのスタンダード」に基づいた授業公開を行った。

学校名	飯坂小学校	川俣南小学校	福田小学校	富田小学校
実施日・学年 ・教科名	9/27(水)・2年 ・算数科	9/29(金)・3年 ・算数科	10/13(金)・6年 ・外国語活動	10/19(木)・5年 ・道徳

4 成果と次年度へ向けて

(1) パイロット校Ⅰについて

① 成果

- 「授業スタンダード」を適宜活用しながら、これまでに獲得した知識・技能を基に、新たな教材との出会いにより「気付き」が誘発され、うまく活用できないか「考え」、新たな手法により「表現する」活動を、教師自身が意識して日常化を図ったことで学力向上に寄与することができた。



- 「タテ持ち」により教科内の指導方法について共通理解を図ることができた。

② 次年度へ向けて

- 「授業スタンダード」にある教師の適切な支援によるコーディネートが重要であり、今後も生徒一人一人を見取りながら支援する必要がある。
- 教材との出合わせ方を効果的に行うためには、授業導入時に既習事項の振り返りや視覚的な教材の活用についても工夫していく必要である。
- 「家庭学習スタンダード」を基に、授業と家庭学習をつなぎ、連携・協力体制が築けるようにしたい。

(2) パイロット校Ⅱについて

① 成果

- 全職員が「授業スタンダード」に基づいて複数回の授業研究を行うことで、日々の授業改善に向けた意識が高まった。



- 「教科担任制」については、教師の専門性を生かしつつ教材研究を深めたり、系統性を意識して授業を構想したりすることができた。

- 各教科部ごとの授業研究会だけでなく、必要に応じて互見授業を行うことで教師間で学び合う機会を設けることができた。

② 次年度へ向けて

- 「授業スタンダード」を基に、学年や学級で重点的に取り組みたい内容を絞り込み、より具体的な指導につなげられるようにしたい。
- 「教科担任制」を効果的にかつ円滑に実施するためには、今後、学級数が減少していくことも考慮し、人的・時間的な配当等の工夫・改善が必要である。
- パイロット校同士はもちろん、推進地域内の協力校や他校の先生方とより積極的に関わっていく必要がある。